

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：30106

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22652035

研究課題名（和文）中華圏における SF・FT・ホラー小説の現状

研究課題名（英文）Current status of SF・FT・horror novel in China

研究代表者

山本 範子 (NORIKO YAMAMOTO)

北星学園大学・文学部・准教授

研究者番号：40438346

研究成果の概要（和文）：中国大陸、台湾の SF を中心に、ホラーや幻想文学などを日本で紹介した。また、中国では日本 SF について講演、発表し、日中 SF の交流に努めた。さらに中国の学者や作家を日本に呼んで、中国 SF の現状などについて発表してもらうなどの企画もたて、実行した。

研究成果の概要（英文）： The SF and fantasy literature and horror of China and Taiwan, I was introduced in Japan. I talk about Japanese SF in China. Planning call Chinese writers and scholars to Japan , get a presentation on the current situation of Chinese SF .

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	400000	0	400000
2011 年度	500000	150000	650000
2012 年度	400000	120000	520000
年度			
年度			
総計	1300000	270000	1570000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学・日本 SF・中国 SF・台湾 SF・中国ホラー・台湾ホラー

## 1. 研究開始当初の背景

(1) ここ十年ほど、中国の SF の進歩は目覚ましく、それまでの中国独自のユートピア SF や科学普及小説とは異なる、エンターテインメントとしての SF が登場し、新しい一大勢力を築くようになっている。

また西欧や日本のゲームやアニメ、マンガ、小説などの影響を受けて、ライトノベル的な作風も増えて来た。

FT やホラー小説も人気を得て、市場を広げている。

以上のような状態が見てとれるのに対し、日本ではそれらの作品、作者、傾向が

紹介されることはほとんどなく、「今」の中華圏文化(主に SF を中心とした小説)を伝える必要があると思われた。

(2)そこで、中国大陸を中心に、台湾・香港における中華圏での SF、FT、ホラー小説の現状を調査し、発表することを考えた。

(3)小説に大きな影響を与えていると思われるゲーム、アニメ、ライトノベルについても調査しようと計画した。

(4)日本作品の影響も大きいと考えられたことから、日中比較も視野に入れることとした。

(5) 当時は中華圏の SF などが日本で紹介されることは少なく、ごく限られた書物や論文のみであったことから、まずは日本で紹介することからはじめ、機会をみつけて翻訳や発表などを行い、広くその存在と内容を周知することが先決であると考えた。

(6) 日中での SF 関係者たちとの連携ができていなかったため、学会や大会、研究会などに積極的に参加し、連絡を密にとりあえるような関係の構築につとめることから始める必要があった。

## 2. 研究の目的

(1) 日本でよく知られている中国文学(当代文学)は純文学が主体であり、エンターテインメント分野である SF や FT、ホラー小説などの紹介はこれまでほとんどなされてこなかった。(ごく一部の研究者や在野の翻訳家などによる紹介があったのみ)

ところが中国ではこういったエンターテインメント小説が非常に流行しており、現在の中国文化を知る上でも無視できない存在であると思われるようになった。

そこで、まずは中国 SF 界との関係を構築して、情報収集を行うことを第一目標とした。

(2) 中華圏の作品をできるだけ数多く日本で紹介することを第二の目的とした。そのことにより、日中間のエンターテインメント小説の交流が進み、互いに翻訳・紹介しあえるようになればと願った。

(3) 日本の作品が中国に与えた影響を明らかにすることにより、現在の中国 SF などの流れ、傾向などを考察することを第三の目的とした。

(4) 中国や台湾においては、日本の SF 小説などについての紹介を行い、広く知ってもらうことも、目的の一つとした。

## 3. 研究の方法

(1) 中国の SF 大会、日本の SF 大会、および SF 関連の会合等に参加し、最新の情報を仕入れると同時に、研究者や作家、編集者たちと交流を深める。

また作家や編集者などにインタビューを行い、その結果を雑誌や紀要などで発表する。

(2) 日本や中国の雑誌、インターネットなどを通じて、相手国の作品や作家を紹介する。

(3) 日本や中国での会議や大会に参加して相

手国の作品について発表、紹介する。特に日本では、中華圏 SF の紹介について自身が企画し、中国人を呼んで主催する。

(4) 書籍(紙媒体、電子書籍含む)を多く読むことにより、中華圏 SF、FT、ホラー小説の現状、流行などを把握する。また個々の作品や作者についても詳細に研究する。

(5) 紹介、翻訳以外に、新たに中国語閱讀教科書として、中華圏 SF、ホラー、FT を題材としたものを出版することになり、編集・執筆する。

## 4. 研究成果

(1) 中華圏(特に中国大陸と台湾)では講演を行ったり、大会に参加したり、SF 研究者の授業見学を行ったりしたことにより、日中 SF を中心とした人間関係が構築され、交流が盛んになった。筆者の筆名(本名も)は中華圏 SF ではある程度知られるようになり、ゲストとして招待されたり、執筆を依頼されたりするようになった。

(2) 日本の雑誌や紀要では中国 SF や FT、ホラー小説について紹介し、中国の雑誌(インターネット雑誌を含む)では日本 SF を紹介した。

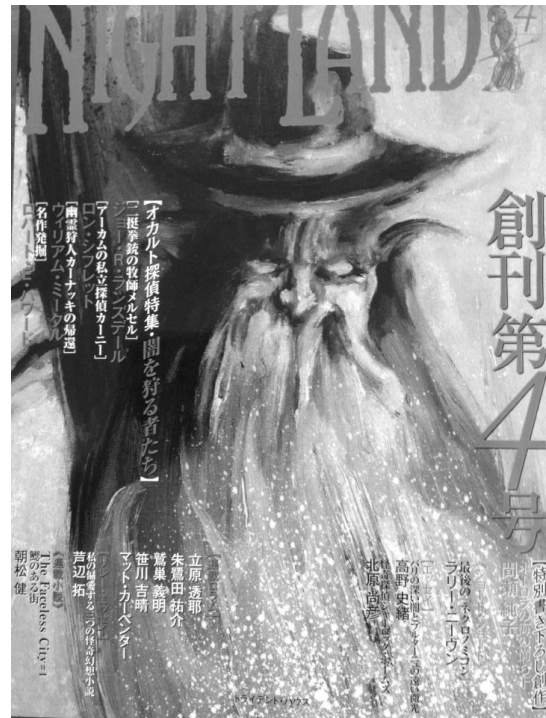


図1 雑誌「ナイトランド」第4号表紙  
(トライデントハウス)

(3) インターネットでも日本語、中国語で適宜、相手国の情報を流したことにより、それぞれの関係者から反応があった。

それにより 2013 年 7 月の日本 SF 大会(広島で実施)では香港から作家一名、中国大陸からは作家や学者が合計八名参加して、中華圏 SF についての発表を三時間にわたって行うことが決まっている。(企画、司会、翻訳そのほか事務的なことはすべて筆者が担当)

(4) 日本 SF 作家クラブ創設 50 周年記念で、2013 年 7 月末に 10 日間ほど国際 SF シンポジウムが開催されることになり、筆者は中華圏ゲストと企画を担当、ゲストとして呉岩教授を招聘、講演を依頼している。

(国際ゲストは 4 名で、うち 1 名が中国の学者・作家。これまでは日本でのこういった国際会議では中華圏のゲストが招聘されることはほとんどなく、英語圏が中心であった。目玉のゲストに中国 SF 関係者を招待することができたのは、大きな成果であるといえよう)

また、筆者自身も中華圏 SF に関する発表を行う予定。

(5) SF が大流行している中国大陸に対し、SF 人気にかげりが見える台湾や香港の作家・学者たちと交流し、現状を調査した。取材成果を雑誌や紀要に発表した。

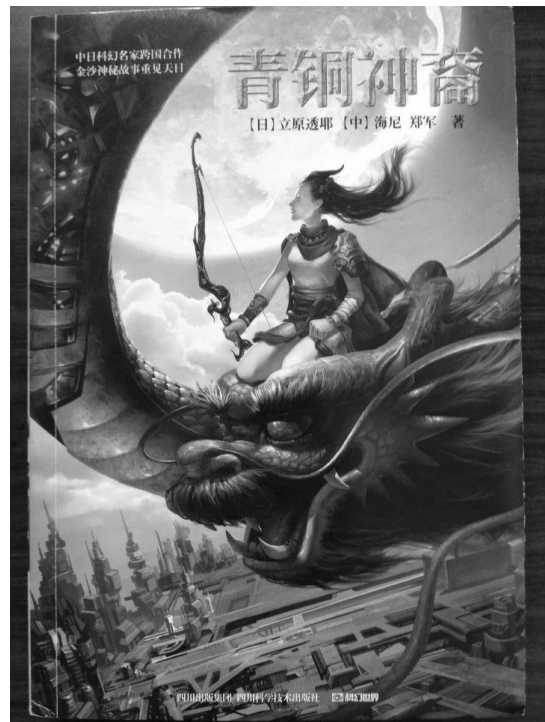
(6) アメリカで開催された世界 SF 大会に参加し、中華圏 SF についての発表を聞くと同時に、欧米で勢いを増している華僑作家について調査、取材した。それらの結果は紀要に発表した。



図2 アメリカでの世界SF大会における中国 SF 企画の様子(発表者:呉岩 教授)

(7) 現在、中華圏 SF を中心とした、日本人向け中国語閲読教科書(中級レベル)を執筆中。(出版社決定済み)

(8) 筆者の筆名による小説が中国語訳され、中国大陸で出版された。



(9) 呉岩 北京師範大学教授による、SF 研究および SF 教育に関する講義や講演の見学を通し、中国大陸における大学院の系統だった専門の SF 教育について学んだ。

また台湾では黄海氏による SF に関する講義を聴講、台湾での大学教養レベルでの SF 教育について学んだ。

(これらのことで、日本における SF 教育について関心を持ち、引き続き調査中である。将来的には日中 SF 教育の比較を論じる予定である)

(10) それまで日本ではほとんど注目されなかった中華圏 SF、FT、ホラーについて雑誌などで紹介をつづけた結果、問い合わせなどが増え、「日本で中華圏 SF、FT、ホラー小説を紹介し、普及させる」という本研究の再大の目的を一定程度達成したものと思われる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

- ① 山本範子、中国科幻小说の諸相(4)、北星論集、査読無、第 50 巻、2013、77-84
- ② 立原透耶(山本範子の筆名)、ASIAN HORROR NOW(5)、ナイトランド、査読無、第 5 号、2013、110-113
- ③ 立原透耶(山本範子の筆名)、ASIAN HORROR NOW(4)、ナイトランド、査読無、第 4 号、

2012、110-113

- ④ 立原透耶(山本範子の筆名)、ASIAN HORROR NOW(3)、ナイトランド、査読無、第3号、2012、110-113
- ⑤ 立原透耶(山本範子の筆名)、ASIAN HORROR NOW(2)、ナイトランド、査読無、第2号、2012、110-113
- ⑥ 山本範子、中国科幻小说の諸相(3)、北星論集、査読無、第49巻、2012、55-64
- ⑦ 立原透耶(山本範子の筆名)、ASIAN HORROR NOW(1)、ナイトランド、査読無、第1号、2012、110-113
- ⑧ 立原透耶(山本範子の筆名)、日本科幻作家眼中的”3・11”大地震、科幻世界 翻訳版、査読無、2011、72-73
- ⑨ 立原透耶(山本範子の筆名)、日中SFの架け橋として、中国SF資料之九、査読無、第9巻、70-74

〔学会発表〕(計5件)

- ① 山本範子、日本科幻小说這幾年、中華科幻学会、2013年3月、世新大学(台湾)
- ② 山本範子、日本科幻近況、北京师范大学科幻与科学教育课程、2012年3月、北京师范大学(中国)

〔図書〕(計1件)

立原透耶(山本範子の筆名)、海尼、郑军、四川出版集團・四川科学技術出版社、青銅神裔(中国語訳)、2013、389(1-230)

図3 単行本『青銅神裔』表紙  
(四川出版集團・四川科学技術出版社)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者  
山本 範子 (NORIKO YAMAMOTO)  
北星学園大学・文学部・准教授  
研究者番号：6000029244

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：